

TOSHIBA

東芝パッケージエアコン〈天井吊形〉

据付説明書

〈室内ユニット〉

AIC-GP2241H

AIC-GP2801H

組み合わせ室外機はカタログをご覧ください。

〈リモコン：別売品〉

RBC-AMSU** (省エネneoリモコン)

RBC-ATX41 (ワイヤレスリモコン)

TCB-AXRU41 (ワイヤレスリモコン別置受信部)



EB99850601

R32冷媒機種

お知らせ

- このエアコンはオゾン層を破壊しないHFC系R32冷媒を使用しています。
- 本説明書は室内ユニット側の据付工事方法を記載しています。
- 室外機の据付は、室外機に付属している据付説明書に従ってください。
- この室内ユニットはR32冷媒用です。必ず対応する冷媒用の室外機と組み合わせてください。
- リモコンは別売です。取付は、各別売品に付属している取付説明書に従ってください。
- ワイヤレスタイプは、ワイヤレスリモコン（別売）とワイヤレスリモコン受信部（別売）をそれぞれ購入してください。（別置き受信部を壁などに取り付けるタイプとなります。）
- リモコンの詳細設定内容は、リモコンに付属している据付説明書に従ってください。

付属部品

部品名	個数	形状	用途	部品名	個数	形状	用途
取扱説明書	1	—	(お客様に必ず渡してください)	ホースバンド	1		ドレン管接続用
据付説明書	1	本紙	(お客様に必ず渡してください)				
ゴム板	4		裏面シール付き	サイドパネル(右)	1		ダンボール箱に入れて同梱しています。
				サイドパネル(左)	1		
ジョイントソケット	1		ドレン管接続用	ねじ	2		サイドパネル固定用(サイドパネル裏側にテープで固定しています。)

- サイドパネルは室内ユニット吸込部へダンボール箱に入れて付属しています。取付方法はダンボール箱に貼り付けてある銘板を参照してください。

もくじ

安全上のご注意	2
エアコンの据付について	3
据付場所の選定	3
1. 室内ユニットの据付	4
2. 冷媒配管	5
3. ドレン配管	6
4. 電気配線	7
5. 応用制御	9
6. 試運転	13
7. カスタム機種モニター	14
8. 故障診断	14
9. 室内ユニット設定確認	16
10. フロン排出抑制法による冷媒充填量記載のお願い	16

◇お客様への引き渡し

- 「取扱説明書」とこの「据付説明書」を必ずお客様に渡してください。
- 「取扱説明書」の内容を十分ご説明のうえ、引き渡しをお願いします。

日本国内専用品
Use only in Japan

安全上のご注意

- お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するための安全に関する重大な内容を記載しています。次の内容(表示・図記号)をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

表示の説明



警告

“取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷(*1)を負うことが想定される内容”を示します。



注意

“取り扱いを誤った場合、使用者が軽傷(*2)を負うことが想定されるか、または物的損害(*3)の発生が想定される内容”を示します。

- *1:重傷とは、失明やけが・やけど(高温・低温)・感電・骨折・中傷などで、後遺症が残るものおよび治療入院・長期の通院を要するものをさします。
*2:軽傷とは、治療入院や長期の通院を要さない、けが・やけど・感電などをさします。
*3:物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットなどにかかわる拡大損害をさします。

図記号の説明



禁止

○は、禁止(してはいけないこと)を示します。具体的な禁止内容は、図記号の中や近くに絵や文章で指示します。



指示

●は、指示する行為の強制(必ずすること)を示します。具体的な指示内容は、図記号の中や近くに絵や文章で指示します。



注意

△は、注意を示します。具体的な注意内容は、図記号の中や近くに絵や文章で指示します。

警告

- 据付は販売店、または専門業者に依頼する**
ご自分で据付工事を行い不備があると、水漏れや感電・火災などの原因になります。
- 施工前に使用する冷媒種がR32であることを必ず確認する**
- 据付工事は、R32もしくはR410A用に製造された専用のツール・配管部材を使用し、この据付説明書に従って確実に行う**
専用の配管部材を使用しなかったり、据付に不備があると破裂・けがの原因になり、また、水漏れや感電・火災の原因になります。
- 改造は絶対にしない**
火災・感電・けが・水漏れなどの原因になります。
- 冷媒充填・回収作業については、第一種フロン類充填回収業者に依頼する**
冷媒充填・回収作業には、専門の知識と技術が必要です。ご自分で作業を行い不備があると冷媒ガスが漏れる原因になります。
- 指定冷媒(R32)以外は使用(冷媒補充・入替え)しない**
室外機の装置銘板あるいはサービスポート近傍に明示している指定冷媒以外を使用した場合、機器の故障や破裂・けがなどの原因になります。
- 据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う**
据付に不備があると、水漏れや感電・火災の原因になります。
- 小部屋へ据え付ける場合は適用床面積を守り、万一冷媒が漏れても限界濃度を超えない対策が必要**
適用床面積・限界濃度を超えない対策については、販売店と相談して据え付けてください。
万一、冷媒が漏洩して限界濃度を超えると着火や酸欠事故の原因となります。
- 据付は、重量に十分耐える所に確実に行う**
強度が不足している場合は、ユニットの落下により、けがの原因になります。
- 台風などの強風・地震に備え、所定の据付工事を行う**
据付工事に不備があると、転倒・落下などによる事故の原因になります。
- 据付工事中に冷媒ガスが漏れた場合は換気を行う**
漏れた冷媒ガスが火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 据付工事終了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する**
冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒーター・ストーブ・コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因となります。
- 電気工事(アース工事を含む)は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」・「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する**
電源回路容量不足や施工不備があると感電・火災の原因になります。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定する**
接続や固定が不完全な場合は、火災などの原因になります。
- アースを必ず取り付ける**
法律によりD種接地工事が必要です。アースが不完全な場合は、感電の原因になります。
アース線はガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しないでください。
- 据付や移設時、冷凍サイクル内に指定冷媒(R32)以外の空気などを混入させない**
空気などが混入すると冷媒サイクル内が異常高圧となり、破裂によりけがなどの原因になります。
- 設備工事完了後、フレア接続部を中心に冷媒ガスが漏れていないことを確認する**
漏れた冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 据付作業では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取り付ける**
冷媒配管が取り付けられておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂・けがなどの原因になります。

警告

- ポンプダウン作業では、冷媒配管をはずす前に圧縮機を停止する**
圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂・けがなどの原因になります。
- 防火区画を配管が貫通する場合は、貫通部の隙間を不燃材(パテなど)で埋める**
- フロン類をみだりに大気中に放出しない**
フロン類を大気中に放出することは、法律により禁止されています。
- 可燃性ガスの漏れるおそれのある場所への設置は行わない**
万一ガスが漏れてユニットの周囲に溜まると、発火の原因になることがあります。
- 漏電遮断器(過電流保護機能付き)が正しく取り付けられているか確認する**
漏電遮断器が正しく取り付けられていないと感電の原因になることがあります。
確認方法については、据付を行った販売店、または据付専門業者へお問い合わせください。



注意

- フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締め付ける**
フレアナットの締め付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ、冷媒漏れの原因になることがあります。
- 据付作業のときは手袋(※)を着用する**
着用しないと部品などにより、けがをする原因になります。(※軍手などの厚手の手袋)
- ろう付け作業を行う場合は、冷媒の漏洩や残留がないか確認する**
漏れた冷媒ガスが火気に触れると有毒ガスが発生したり、着火の原因になります。
- 据付や移設を行う場合、ガス・石油燃焼器・電気ヒーターなどの火元(着火源)となるものは十分遠ざける**
漏れた冷媒ガスが火気に触れると有毒ガスが発生したり、着火の原因になります。
- ドレン配管は、据付説明書に従って確実に排水するよう施工し、結露が生じないように断熱する**
配管工事に不備があると、屋内に水漏れし、家財などをめらす原因になることがあります。
- 蒸気が多く発生するような場所、蒸気が発生させる機器近傍に室内ユニットを設置しない**
ユニット内蔵部品が結露し、故障するおそれがあります。
- エアコンの吹出口は火災報知器より1.5m以上離して設置する**
火災発生時に火災報知器の作動が遅れる、または検出できない場合があります。



エアコンの据付について

このエアコンはオゾン層を破壊しないHFC系冷媒(R32)を採用しています。

- R32冷媒は圧力が高く、水分・酸化皮膜・油脂などの不純物の影響を受けやすいので、据付工事のときに水分・ゴミ・他の冷媒や冷凍機油などが冷凍サイクル内に混入しないよう注意が必要です。
- 据付には、下記のR32もしくはR410A冷媒用専用ツールが必要です。
- 接続配管はクリーンな新品の配管部材を使用し、水分・ゴミを混入させないよう施工してください。
- 既設配管を流用する場合は、室外機に付属の据付説明書に従ってください。

必要器材および取扱上の注意点

据付工事を行うために、下表に示す工具・器材を準備する必要があります。
これらの中で新規に準備する工具・器材は、必ず専用品としてください。

記号の説明 ○：新規に準備(R32専用としてR410Aと使い分けが必要) △：従来工具を流用可

使用する機器	用途	工具・器材の使い分け
ゲージマニホールド	真空引き冷媒充填	△R410A(使用可能)
チャージングホース	および運転チェック	△R410A(使用可能)
チャージングシリンダー	冷媒充填	使用不可(冷媒充填ハカリによること)
ガス漏れ検知器	ガス漏れチェック	△R410A(使用可能)
真空ポンプ	真空乾燥	△R410A(使用可能)
逆流防止付き真空ポンプ	真空乾燥	△R410A(使用可能)
フレアツール	配管のフレア加工	△R410A(使用可能)
ベンダー	配管の曲げ加工	△R410A(使用可能)
冷媒回収機	冷媒の回収	△R410A(使用可能)
トルクレンチ	フレアナットの締め付け	△R410A(使用可能)
パイプカッター	配管の切断	△R410A(使用可能)
冷媒ポンベ	冷媒充填	○R32専用 識別：冷媒名記載
溶接機・窒素ポンベ	配管の溶接	△R410A(使用可能)
冷媒充填ハカリ	冷媒充填	△R410A(使用可能)

冷媒配管について

このエアコンの据付には、R32もしくはR410A冷媒対応のフレア方式配管キットを使用してください。

- 配管キットを使用する場合は、必ず、配管肉厚がφ6.4、φ9.5、φ12.7は0.8mm、φ15.9は1.0mm、φ19.1は1.2mm、φ25.4は1/2H材で1.0mmのものを使用してください。配管肉厚が上記以下の薄肉配管は、耐圧強度が不足しますので絶対に使用しないでください。

※R410A冷媒用配管キットを使用する場合は、**冷媒種:2種、対応冷媒名:R410A**と表示されている配管を使用してください。(適用冷媒種は、配管の断熱材被覆にも約1mごとに記号化して表示してあります。この表示が「◎」のものを使用してください。)

また、フレア加工・フレアナットもR32・R410A冷媒用のものが必要ですが、この表示のある冷媒配管キットでフレアナットが付き、フレア加工してあるものは、そのまま使用できます。

1. 一般の銅管を使用する場合

- 銅管はJIS H 3300「銅および銅合金継目無管」のC1220タイプで、内部の付着油量40mg/10m以下、配管肉厚はφ6.4、φ9.5、φ12.7は0.8mm、φ15.9は1.0mm、φ19.1は1.2mm、φ25.4は1/2H材で1.0mmのものを使用してください。
上記以外の薄肉配管は、絶対に使用しないでください。

2. フレアナットおよびフレア加工

- フレアナットはエアコン本体付属のもの、またはR32・R410A用を使用してください。
- フレア加工は5ページの「冷媒配管の接続」をご覧くださいのうえ、加工してください。

据付場所の選定

警告

可燃性ガスの漏れるおそれのある場所への設置は行わない
万一ガスが漏れて室内ユニットの周囲に溜まると、発火の原因になることがあります。



注意

- エアコンの吹出口は火災報知器より1.5m以上離して設置する
火災発生時に火災報知器の作動が遅れる、または検出できない場合があります。
- 蒸気が多く発生するような場所、蒸気が発生させる機器
近傍に室内ユニットを設置しない
ユニット内蔵部品が結露し、故障するおそれがあります。



室内ユニットは冷・温風がムラなく循環する場所を選んでください。

次のような場所はさけてください。

- 酸性またはアルカリ性雰囲気のある場所(温泉地帯・化学薬品工場・燃焼器の排気を吸込む場所、次亜塩素酸ナトリウムを噴霧する場所など)…熱交換器(アルミフィン・銅パイプ)などに腐食を起こすおそれがあります。
- 切削油などの機械油の立込める雰囲気のある場所…熱交換器の腐食・熱交換器目づまりによる霧の発生・フィルター目づまりによる性能低下および結露・プラスチック部品の破損・断熱材のはかれなどを起こすおそれがあります。
- 食用油煙が発生する場所(食用油を使用する厨房や焼肉・お好み焼き店など)…フィルター目づまりによる性能低下および結露・プラスチック部品の破損などを起こすおそれがあります。
- 吹き出しの気流を乱す換気口や照明器具などの障害物が近くにある場所(気流の乱れにより、能力低下や機器の停止のおそれがあります。)
- 電源に自家発電装置を使用している場所…電源周波数・電圧が変動し、エアコンが正常に動作しないことがあります。
- 金属粉などの粉塵が発生する場所には据え付けしないでください。金属粉などがエアコン内部に付着・堆積すると自然発熱することがあり、火災の原因になります。
- クレーン車・船舶など移動するもの
- 特殊用途(食品・動植物・精密機器・美術品の保存など)では使用しないこと。(保存物の品質などに損害のおそれがあります。)
- 高周波の発生する機器(インバーター機器・自家発電機・医療機器・通信機器)がある場所(エアコンの誤動作や制御の異常や、それら機器へのノイズによる弊害が生じるおそれがあります。)

- 据え付けた下に、めれては困るものがある場所(湿度80%以上のときやドレン口が詰まった場合に、室内ユニットから露が滴下し損害が生じるおそれがあります。)

- ワイヤレスタイプの場合、インバータータイプの蛍光灯がある部屋、また直射日光が当たる場所(ワイヤレスリモコンの信号を受け付けられないことがあります。)
- 有機溶剤を使用している場所
- 液化炭酸冷却など化学プラントには使用できません。
- ドアまたは窓の近くで高湿度の外気と接するおそれのある場所(結露するおそれがあります。)
- 特殊なスプレーを頻繁に使用する場所
- 冷媒が漏れ出したときに、冷媒(R32)の濃度が燃焼濃度を超える場所(必ず設置前に室外機付属の「R32冷媒施工時チェックシート」に必要事項を記入してください。)

建物の金属部とエアコン金属部との電気絶縁は電気設備技術基準(省令第59条、基準の解釈第167条3項)に従ってください。

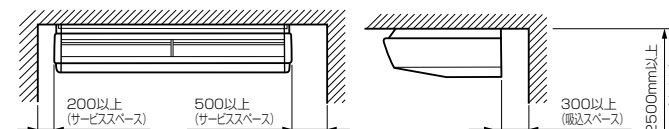
配管を壁に貫通させるときは、必ず下記の部品を使用してください。

- 幹旋先：東芝コンシューママーケティング(株)
- (1) 部品名：ウォールキャップ
型名：WC-75N
 - (2) 部品名：貫通スリーブ
型名：NFP-75

室内ユニット下面から床まで1.8m以上離してください。

据付スペース

室内ユニットの据付およびサービスに必要なスペースを確保してください。



(単位：mm)

1 室内ユニットの据付

警告

据付は、重量に十分耐える所に確実に行う
強度が不足している場合は、ユニットの落下により、
けがの原因になります。
P280形は製品重量が100kgを超えるため、設置場
所が地上60m以下、3階以上の場合は、建築基準法
施行令第39条および第81条に従ってください。

台風などの強風・地震に備え、所定の
据付工事を行う
据付工事に不備があると、転倒・落下
などによる事故の原因になります。



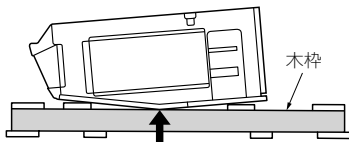
お願い

室内ユニットの損傷防止およびケガ防止のため、次のことは必ず守って取り扱ってください。

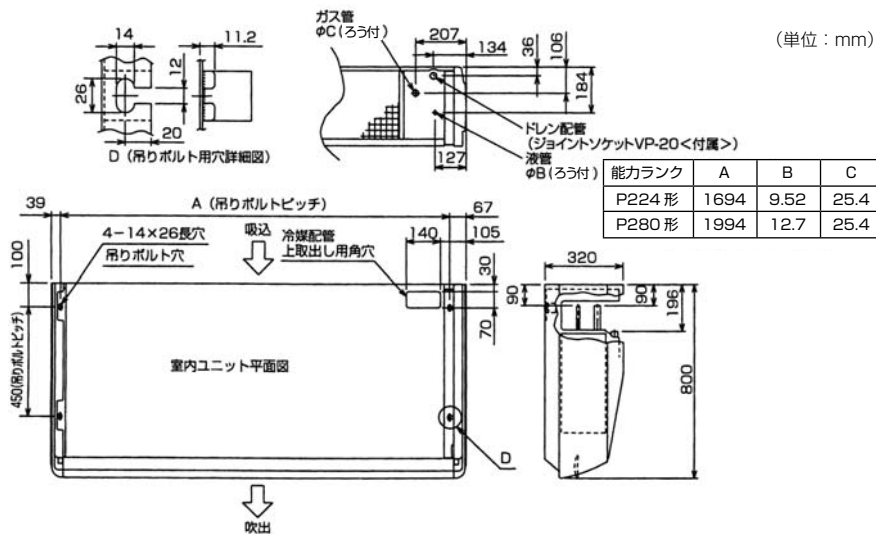
- 梱包された室内ユニットの上に乗ったり、重量物を置いたりしないでください。
- 室内ユニットの搬入は、なるべく梱包したままで搬入してください。
やむをえず、開梱して搬入する場合は、当て布などで傷を付けないようにしてください。
- 運搬は2人以上で行い、PPバンドなど所定位置以外での運搬はしないでください。
- 室内ユニットを吊り位置まで持上げる場合、化粧パネルのへこみおよび傷つきを防ぐため、梱包材の木枠の上にユニットを乗せて、その木枠ごとホイスト・ジャッキなどで持ち上げてください。

その際、木枠とユニットとの間に傷つき防止およびすべり止めのクッションをはさんでください。

- ①室内ユニットを木枠に乗せるときは、右図の位置になるようにセットしてください。
※パネルのR曲げ部分が右図矢印の位置になるようにしてください。
- ②ユニットを持ち上げるとき、不安定になりやすいため十分注意してください。
- ③作業は必ず、軍手など保護具をつけて行ってください。



外形図



配管穴開口と吊りボルトの設置

- 室内ユニットは、吊り下げたあとの配管配線工事を考慮して、据付位置と方向を決定してください。
- 室内ユニット据付位置決定後、配管穴の開口と吊りボルトの設置を行ってください。

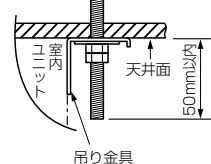
室内ユニット据付用の吊りボルトとナットは現地手配してください。

吊りボルト	M10またはW3/8	4本
ナット	M10またはW3/8	8個

※吊金具上下ナットで締め付ける場合、ナットは12個必要です。

吊りボルトの取付

吊りボルト(4本、現地手配)はM10またはW3/8を使用します。ピッチはユニット外形図の寸法に従い、既設構造に合わせて次の方法で取り付けてください。



木造の場合

梁の上に角材を渡して吊りボルトを設置します。



梁間が90cm以下の場合	6cm以上の角材
梁間が180cm以下の場合	9cm以上の角材

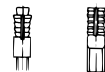
新設のコンクリートスラブの場合

インサート金具・埋込ボルトなどで設置します。



既設のコンクリートスラブの場合

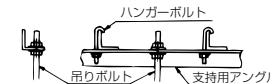
ホールインアンカー・ホールインプラグまたはホールインボルトを使用します。



インサートおよびホールインアンカーなどの強度 100~150kg/本

鉄骨構造の場合

アングルをそのまま利用するか、新規に支持用アングルを設置します。

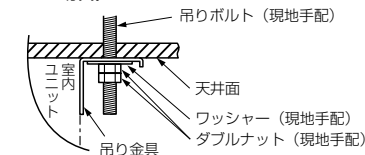


室内ユニットの設置

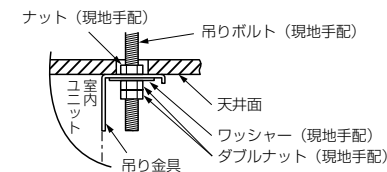
●室内ユニット吊り下げ前の準備

※天井材の有無により吊り金具の固定方法が変わりますので事前に確認してください。

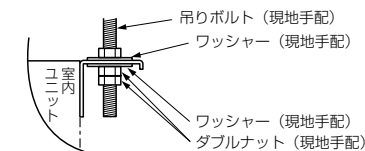
<天井材がある場合>



- 吊り金具下のナットを締め付けると天井が持ち上がってしまう場合は、下図の方法で固定してください。

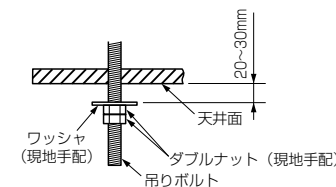


<天井材がない場合>



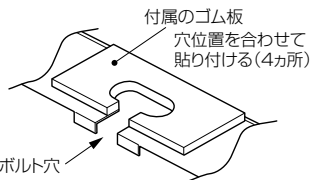
●室内ユニットの吊り下げ

- ①吊りボルトにワッシャーとナットを取り付けます。

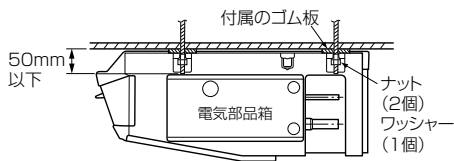


1 室内ユニットの据付 (つづき)

- ②室内ユニットに付属ゴム板を貼り付けます。
 付属のゴム板を下図のように、室内ユニット吊り金具(板金)の上面に貼り付けてください。(4カ所)
 ゴム板は裏面にシール付きです。
 板金側の切欠き穴に貼り付けてください。



- ③下図のようにダブルナットでしっかり固定してください。



お願い

- 天井面は必ずしも水平ではありませんのでユニットの幅・奥行方向の水平度がでているか必ず確認してください。
- 吹出口側および選択したドレン配管取出方向の反対側が低くならないように設置してください。

リモコン受信距離

ワイヤレスリモコン使用時

- リモコンを操作する位置と据付場所を決めてください。(ワイヤレスリモコンの受信距離は約7m以内です。この距離は目安です。乾電池の容量などにより、若干前後します。)
- 誤作動、リモコン受信不良防止のため、蛍光灯・赤外線が発生させる機器(電子黒板など)や直射日光の障害を受けない場所を選定してください。
 - リモコン送信部および受信部の設定を切り換えることで、同じ部屋に設置の2台の室内ユニットを個々に操作できます。
 - テレビやステレオなどの機器から1m以上離してください。(映像の乱れや雑音が入ることがあります。)

冷媒配管の接続

冷媒配管は室内ユニットと室外機の間を接続してください。液側冷媒配管・ガス側冷媒配管は共にろう付接続です。

●ろう付作業の注意点

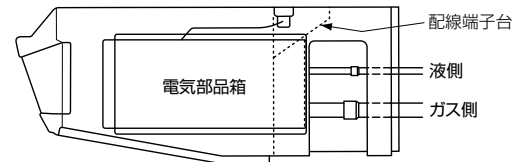
- ①ろう付作業は窒素ガスを流して行ってください。
- ②ろう付作業中は火災にならないように注意して行ってください。
 また、製品内部を焼いたり、破損したりしないように水を浸した布をろう付部の周囲に巻いて行ってください。

●ろう付作業

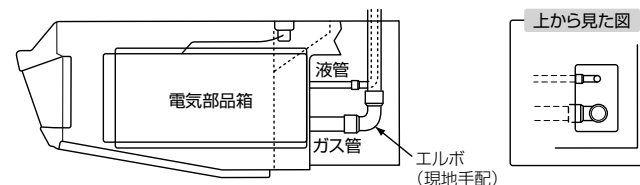
- ①製品側冷媒配管に現地手配銅パイプのフレア部を接続し、ろう付してください。
- ②ろう付は製品下側から外へ向かってトーチを使用してください。
 火炎を製品の外側に向かって出すようにろう付してください。
 内側に向かって行きますと製品内部を破損させますので注意してください。
- ③冷媒配管のユニット接続部の接続方法および断熱処理は下図を参照してください。
 - 冷媒配管のろう付接続部はユニット内部にありますので、サイドパネル(右側)と下パネル(吸込側)を取りはずしてください。
 - ユニットの配管先端に差し込んでいるゴム栓は引き抜いてはすしてください。
 - 冷媒配管ろう付時、本体側断熱パイプの焼け、および熱による縮みを防止するため、必ず本体側断熱パイプにぬれた布などを巻いてからろう付してください。

お願い

- 配線保護板の内側には機内配線が通っています。
 冷媒配管ろう付時、機内配線および電気部品箱に火が当たらないようにしてください。



- このユニットは後ろ、上の2方向から配管の取り出しが可能です。
 上配管をする場合は、下図を参照し配管接続してください。(ガス配管は市販のエルボを現地手配してください。)



2 冷媒配管

警告

- 据付工事中に冷媒ガスが漏れた場合は換気を行う
 漏れた冷媒ガスが火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 据付工事終了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する
 冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒーター・ストーブ・コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因となります。
- 施工前に使用する冷媒種がR32であることを必ず確認する
- 防火区画を配管が貫通する場合は、貫通部の隙間を不燃材(パテなど)で埋める

お願い

- 冷媒配管が長い場合は、2.5~3m間隔で支持金具を設け固定してください。配管を固定しないと異常音が発生する場合があります。
- フレアナットは必ず室内ユニット付属のもの、またはR32もしくはR410A用のものを使用してください。

配管許容長さおよび許容落差

室外機により異なります。詳しくは室外機に付属の据付説明書をご覧ください。

配管材料およびサイズ

能力ランク	配管サイズ (mm)		配管材料
P224形	ガス側	φ 25.4(1/2H材、最小肉厚 1.0)	空調用 リン脱酸銅 継目無管 (C1220T)
	液側	φ 9.5 (O材、最小肉厚 0.8)	
P280形	ガス側	φ 25.4(1/2H材、最小肉厚 1.0)	
	液側	φ 12.7 (O材、最小肉厚 0.8)	

2 冷媒配管 (つづき)

エアパージ

真空ポンプを使用して、室外機のバルブのチャージポートから真空引きを行います。

詳しくは室外機に付属の据付説明書をご覧ください。

- 室外機に封入された冷媒を使ったエアパージは絶対に行わないでください。

お願い

チャージホースなどのツールは、R32 もしくは R410A 専用のものを使用してください。

冷媒追加

冷媒の追加は室外機に付属の据付説明書に従い、R32 冷媒を追加してください。

必ずハカリを使用して定量封入し、追加量は規定量を必ず守ってください。

お願い

- 冷媒の過剰封入や過少封入は、圧縮機の故障を引き起こす原因になります。必ず規定量を守ってください。
- 作業実施者は室外機のサービスパネルに貼り付けてある銘板に配管長さ追加冷媒量を必ず記入してください。圧縮機および冷凍サイクル故障時の原因究明に必要です。

バルブを全開に

室外機のバルブを全開にします。バルブの操作には4mmの六角レンチが必要です。

ガスリークチェック

リークディテクタや石けん水で配管接続部やバルブのキャップ部からガス漏れがないか確認します。

お願い

リークディテクタは、HFC 冷媒 (R32・R410A・R134a など) 専用に製作されたものを使用してください。

断熱処理

配管の断熱は液側とガス側の両方を別々に行います。

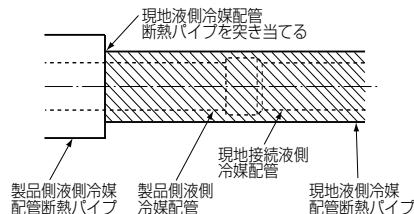
- ガス側配管の断熱材は必ず耐熱温度 120℃以上のものを使用してください。
- 室内ユニットの配管接続部の断熱は、断熱材を用いて隙間なく確実に断熱処理してください。

お願い

- 断熱処理は室内ユニットの配管接続部付根まで露出がないよう確実に行ってください。(配管が露出していると、水漏れの原因となります。)
- 冷媒やドレン配管の貫通部の隙間は、モルタルやその他の不燃材で埋めてください。

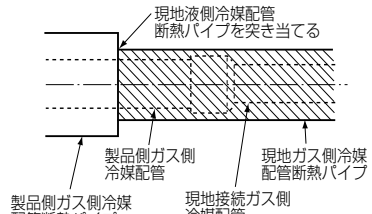
● 液側冷媒配管断熱方法

液側冷媒配管はろう付け後、現地手配の断熱パイプを巻いてください。



● ガス側冷媒配管断熱方法

ガス側冷媒配管はろう付け後、現地手配の断熱パイプを巻いてください。



● 現地配管の断熱材は、下表の規格を満足していることを確認してください。

※ 最上階など高温多湿条件下で使用する場合は、下表以上の厚さが必要となる場合があります。

※ 客先指定の仕様がある場合は、下表の規格を満足する範囲でそれに従ってください。

	配管外径
	6.35~25.4mm
厚さ	12mm以上
耐熱温度	100℃以上

3 ドレン配管

警告

防火区画を配管が貫通する場合は、貫通部の隙間を不燃材 (パテなど) で埋める



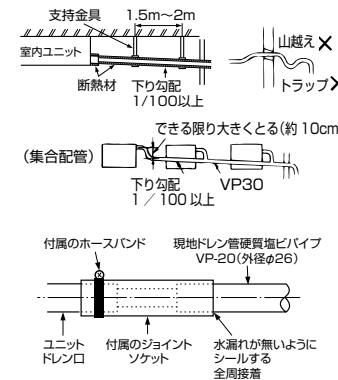
注意

ドレン配管は、据付説明書に従って確実に排水するよう施工し、結露が生じないように断熱する
配管工事に不備があると、屋内に水漏れし、家財などをぬらす原因になることがあります。



お願い

- 室内のドレン配管の断熱を確実に行ってください。
- 室内ユニットとの接続部も必ず断熱してください。断熱が不完全になると結露の原因になります。
- ドレン配管は下り勾配 (1 / 100 以上) とし、途中で山越えやトラップを作らないでください。異常音の原因になります。
- ドレン配管の横引きは 20 m 以下にしてください。配管が長い場合は、1.5 ~ 2 m 間隔で支持金具を設け、波打ちを防止してください。
- 集合配管は右図のように施工してください。
- エア抜き管は付けしないでください。ドレン水が吹き出し水漏れの原因となります。
- ドレン配管との接続部に力を加えないよう注意してください。
- 室内ユニットのドレン配管接続口に直接硬質塩ビ管を接続することはできません。ドレン配管接続口との接続には、必ず付属のジョイントソケットを取り付けます。
- 室内ユニットドレン皿のドレン配管接続口 (硬質ソケット) には、接着剤の使用はできません。接着剤を使用するとドレン配管接続口の破損や水漏れの原因になります。必ず付属のホースバンドで固定してください。



配管材料・断熱材およびサイズ

配管工事および断熱処理には下表の材料を現地手配してください。

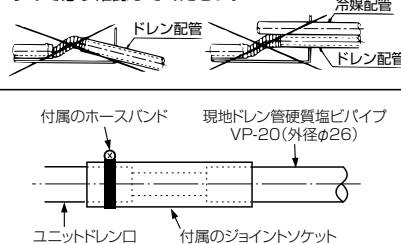
配管材料	硬質塩ビ管ソケット VP20 用
	硬質塩ビ管 VP20 (外径φ 26mm)
断熱材	発泡ポリエチレンフォーム 厚さ 10mm 以上

ドレン配管の接続

- 付属のジョイントソケットをドレン皿のドレン配管接続口に突き当たるまで挿入します。
- 付属のホースバンドを配管接続口の端に合わせ、しっかり締めてください。

お願い

- ジョイントソケットは付属のホースバンドで必ず固定し、締め位置を上側にしてください。
- ドレンは自然排水ですのでユニット外部の配管は下り勾配になるように施工してください。
- 図のように配管しますとドレンが排水できなくなりますので必ず確認してください。



ドレン配管の接続

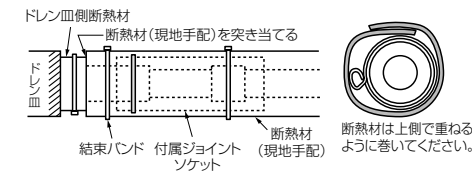
取り付けた付属のドレンホースに、硬質塩ビ管 (現地手配) を接続します。

ドレンアップ

ドレン配管に下り勾配が確保できないときは、別売のドレンアップキットを使用してください。本体天面より 50cm 高くすることができます。
※ ドレンアップキットを使用する場合、ドレンアップキットの取付位置により冷媒配管の向きが制約されます。

断熱処理

● 現地手配の断熱材で接続部とジョイントソケットを被うように隙間なく巻き、結束バンドなどで断熱材が開かないよう締め付けてください。



※ 結束バンドは付属断熱材をつぶすないように締め付けてください。

● 冷媒やドレン配管の貫通部の隙間は、モルタルやその他の不燃材で埋めてください。

4 電気配線

警告

- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定する
接続や固定が不完全な場合は、火災などの原因になります。
- アースを必ず取り付ける
法律によりD種接地工事が必要です。アースが不完全な場合は、感電の原因になります。
アース線はガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しないでください。
- 電気工事（アース工事を含む）は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」・「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する
電源回路容量不足や施工不備があると感電・火災の原因になります。
- 漏電遮断器（過電流保護機能付き）が正しく取り付けられているか確認する
漏電遮断器が正しく取り付けられていないと感電の原因になることがあります。
確認方法については、据付を行った販売店、または据付専門業者へお問い合わせください。



お願い

- 電源配線は所轄の電力会社の規定および電気設備基準に従って行ってください。
- 室外機の電源は各室外機の据付説明書に従って配線してください。
- 制御配線用端子台（リモコン線接続部など）には200V電源を絶対に接続しないでください。（故障します。）
- 電気配線は配管の高温部に接触しないようにしてください。被覆が溶け事故の原因となる場合があります。

電源仕様

配線およびリモコン線は現地手配となります。

電源仕様は下表に従ってください。容量が小さいと過熱・焼損などの発生原因となり危険です。
室外機の電源容量および電源線の仕様は室外機に付属の据付説明書に従ってください。

能力ランク	電源 (50/60Hz)	アース線	室内外交続線	室内電源渡り線 (ツイントリプルだけ)
P224形 P280形	三相 200V	φ2.0mm	φ1.6mm×3本	φ1.6mm×2本

※記載の配線サイズは、最小サイズです。

リモコン配線とリモコン渡り配線

※ご使用のリモコンによって異なります。

リモコン線（通信線）とAC100V/200Vの配線と直接接触させたり、同一電線管に収めることができません。ノイズなどにより制御系統に異常が生じるおそれがあります。

RBC-AMSU**



線種	VCTF: 0.5mm ² ~2.0mm ² ×2		
リモコン配線とリモコン渡り配線の総配線長 (L+L1+L2+...Ln)	1リモコン	2リモコン	ワイヤレスとの2リモコン
	500mまで	300mまで	400mまで
リモコン渡り配線の総配線長 (L1+L2+...Ln)	200mまで		

通信方式とモデル形名

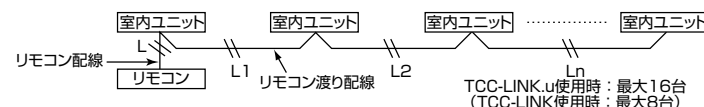
TCC-LINK.uモデル（Uシリーズ）はTCC-LINKモデル（Uシリーズ以外）と組み合わせて使うことができます。
モデルと通信方式の詳細は下表を参照してください。

通信方式	TCC-LINK.u（Uシリーズ）	TCC-LINK（Uシリーズ以外）
室内ユニット	AI*-GP*** ↑ Uシリーズモデル	左記以外 (AI*-RP***, AI*-AP*** など)
ワイヤードリモコン	RBC-AMSU** ↑ Uシリーズモデル	左記以外
ワイヤレスリモコン 受信部	RBC-AXRU** ↑ Uシリーズモデル TCB-AXRU** ↑ Uシリーズモデル	左記以外

室内ユニットに接続するすべてのリモートコントローラー・リモートセンサーがTCC-LINK.uに対応している場合は、自動的にTCC-LINK.uの通信方式になります。
TCC-LINK.uに対応していないリモートコントローラー・リモートセンサーが1台でも含まれていると、従来のTCC-LINKによる通信となります。

注意

- 以下の場合、ワイヤードリモコンを使用して手動でTCC-LINK.uからTCC-LINKに変更してください。
TCC-LINK.uのままでは正しく動作しません。
(設定方法は「詳細データ設定を使用した設定切替」を参照してください。)
- ・TCC-LINK.uに対応していない室内ユニットとグループ接続をする場合
 - ・TCC-LINK.uに対応していない集中管理機器と接続する場合



ユニットの通信方式の組み合わせと最大接続ユニット数

室内ユニット	ユニットタイプ			
	Uシリーズ	Uシリーズ	*	*
リモコン	Uシリーズ	*	Uシリーズ	*
通信方式	TCC-LINK.u		TCC-LINK	
最大接続ユニット数	16		8	

*：Uシリーズ以外

配線接続

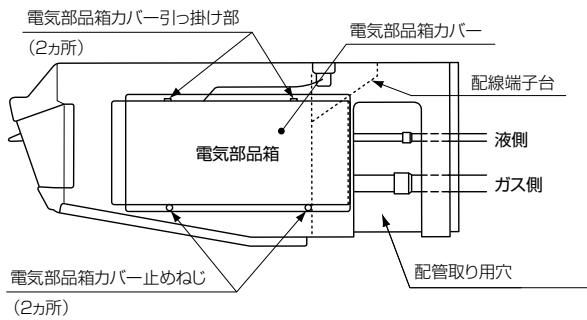
お願い

- 室内外接続線は、必ず端子番号を合わせて接続してください。接続を正しく行わないと故障の原因となります。
- 配線は、室内ユニットの配線接続口を必ず通してください。
- 電気部品箱をサービスなどで吊り下げることがありますので、配線には余裕 (約 100mm) を持たせてください。

■電気部品箱カバーの取りはずしかた

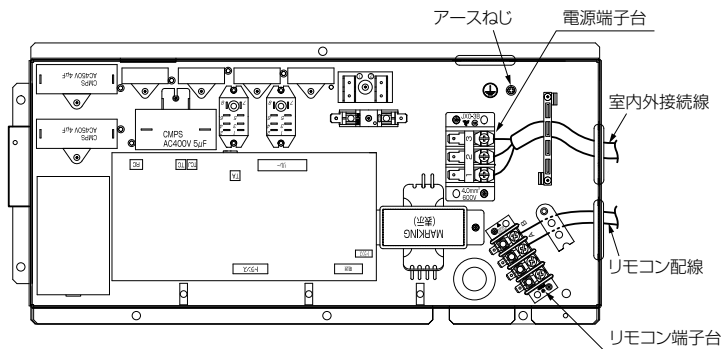
電気部品箱下面のねじ 2 か所をはずし、電気部品箱カバーをはずしてください。

左側カバーをはずした状態



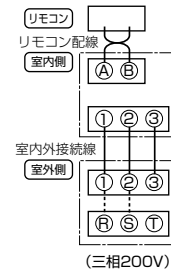
■室内ユニット電気部品箱への配線

- 室内外接続線は、外被覆が電気部品箱に収まるように皮ムキを行ってください。
- 配線は配管取り用穴より引き込みます。
- 配線は図のように、コードクランプで固定してください。
- 端子台の接続部にテンションをかけないこと
- 電気部品箱カバーを必ず取り付けてください。

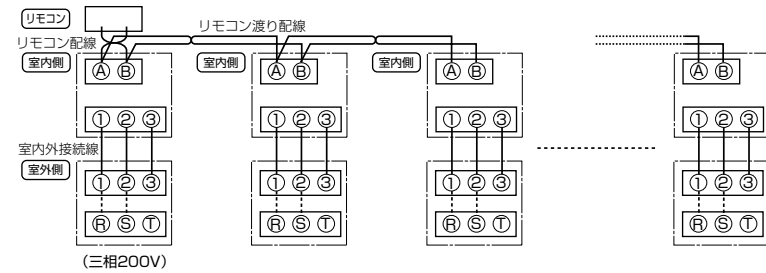


●配線図

〈シングルシステム〉

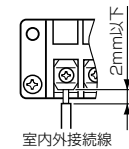


〈シングルシステム複数制御〉



配線の取付位置

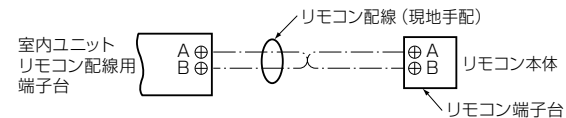
端子台に接続する配線は、下図の寸法を確保してください。



リモコンの配線

取付時にはリモコンの据付説明書をご覧ください。

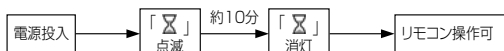
●配線図



※配線は 0.5mm² ~ 2mm² のものを使用します。

5 応用制御

はじめにお使いのときは、電源が入ったあとリモコンが操作を受け付けるまで時間がかかりますが、故障ではありません。
 〈据付後初回電源投入時〉リモコン操作ができるまで約10分かかります。



〈2回目以降電源投入時〉リモコン操作ができるまで約3分かかります。



出荷時は、すべて〔標準〔出荷時〕〕に設定されていますので、必要に応じて室内ユニットの設定を変更してください。
 設定変更は、省エネneoリモコン・ワイヤードリモコンの操作によって行います。
 ＊ワイヤレスリモコン・簡単リモコン・リモコンレスシステム（集中管理リモコンのみの場合）での設定変更はできません。

簡単機能設定を使用した設定切換

室内ユニット停止中にエアコンの各種データ設定ができます。（エアコンは必ず運転を停止させてください。）

1 「☰メニュー」を押して「メニュー画面」にし、「☰メニュー」と「☑」を同時に長押し（4秒以上）して、「現地設定メニュー」にする

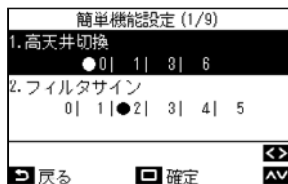
2 「現地設定メニュー」画面で「△」「▽」を押して「簡単機能設定」を選んで「□設定/決定」を押す

3 「△」「▽」を押して項目を選ぶ
 → 「◀」「▶」を押して希望の設定に切り換え、または数値の設定を行います。

4 各項目の設定後「□設定/決定」を押す
 → 変更が確定され、「現地設定メニュー」画面に戻ります。
 → データ変更中は「X」が表示されます。

グループ接続を行っている場合:

→ 各ユニットの「簡単機能設定」終了後「□設定/決定」を押すと変更が確定され、ユニット選択画面が表示されます。ユニット選択画面で「▶戻る」を押すと「X」がしばらく表示されたあと、「現地設定メニュー」画面に戻ります。



フィルターサイン

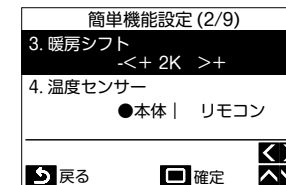
据付状況に応じてフィルターサインが点灯するまでの時間を変更することができます。

設定	0	1	2	3	4
フィルターサイン点灯時間	なし	150H (出荷時)	2500H	5000H	10000H

暖房シフト

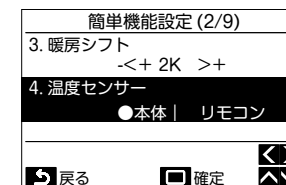
暖房効果をよりよくするために暖房の内部設定温度を上げることができます。

- 「◀」と「▶」でシフトする温度を設定できます。
 （出荷時の設定は「+2K」ですが「+0K(シフトなし)」から「+6K」まで設定できます。）
- シフト温度を設定し確定するには「□設定/決定」を押します。
 変更が確定されて「現地設定メニュー」画面に戻ります。
 （「▶戻る」を押したときは、変更は行われず、変更前の状態で「現地設定メニュー」画面に戻ります。）



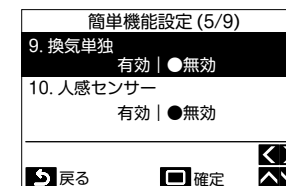
温度センサー

通常は室内ユニットの温度センサーが室温を感知しますが、リモコン周辺の温度を感知させたいときに設定します。（出荷時の設定は「本体」です。）



換気単独

換気扇を単独で運転するとき「有効」に設定します。
 （出荷時の設定は「無効」です。）



詳細データ設定を使用した設定切替

室内ユニット停止中にエアコンの各種詳細データ設定を行うことができます。
(エアコンは必ず運転を停止させてください。)

1 「 メニュー」を押して「メニュー画面」にし、「 メニュー」と「」を同時に長押し(4秒以上)して、「現地設定メニュー」にする

2 「現地設定メニュー」画面で「」「」を押して「詳細データ設定」を選んで「 設定/決定」を押す
→「サービス用です。設定変更が必要ですか?」と表示されるので、変更を行う場合は「 設定/決定」を押してください。

3 「室内機」を「」「」を押して選んで「 設定/決定」を押す
→室内ユニットのファンが動作します。

グループ接続を行っている場合:

→ 選択している室内ユニットのファンが動作します。

4 「」を押して項目コード(DN)を黒いハイライト表示にさせ、「」「」を押して項目コードの設定を行う

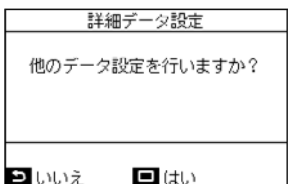
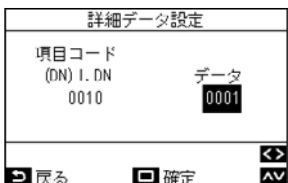
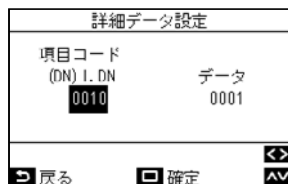
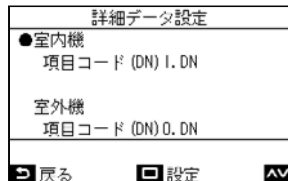
5 「」を押してデータを黒いハイライト表示にさせ、「」「」を押してデータの設定を行う

6 項目コード(DN)のデータ設定終了後「 設定/決定」を押す
→「他のデータ設定を行いますか?」と表示されます。

7 他の項目コード(DN)のデータ設定を行う場合は「 設定/決定」を押す
他の設定を行わない場合は「 戻る」を押す
→ 変更が確定され、「現地設定メニュー」画面に戻ります。
→ データ変更中は「」が表示されます。

グループ接続を行っている場合:

→ 「 戻る」を押すとユニット選択画面が表示されます。ユニット選択画面で「 戻る」を押すと「」がしばらく表示されたあと、「現地設定メニュー」画面に戻ります。



その他

本機種は、以下の機能が使用できます。
詳細は室内ユニットのサービスガイドをご覧ください。

- ・ローテーション・バックアップ運転
- ・フリークーリング
- ・セカンダリーヒーティング
- ・パワー連携

グループ制御

複数台システムのグループ制御の場合

リモコン1個で最大16台 (TCC-LINKの場合は8台) までグループ制御できます。

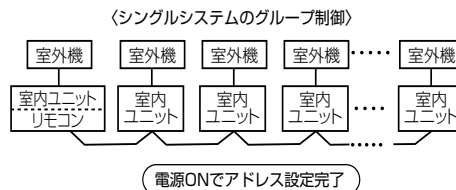
●個々の系統 (同一冷媒系統) システムの配線手順および配線は、本紙『4.電気配線』に従って行ってください。

●系統間の配線は次の手順で行います。

リモコンを接続した室内ユニットのリモコン端子台 (A・B) から他の室内ユニットのリモコン端子台 (A・B) に、リモコン渡り配線をそれぞれに渡らせて接続します。リモコン渡り配線に極性はありません。

●電源投入時に自動アドレス設定に入り、アドレス設定中を示す「」の表示が、表示部に点滅します。
自動アドレス設定中は、リモコン操作を受け付けません。

自動アドレス設定終了までの所要時間は約5分です。



注意

グループ制御のシステム構成によっては、自動アドレス設定後に手動によるアドレス変更を行う必要があります。
●アドレス変更が必要なシステム構成は、複数台のツイン・トリプルシステムが1つのリモコンでグループ制御されている複合システムの場合です。




項目	内容	項目コード (DN)	設定データ		
通信方式	TCC-LINK.uに対応していない室内ユニットとグループ接続をする場合、またはTCC-LINK.uに対応していない集中管理機器と接続する場合は「0000」に設定します。	FC	設定	0000	0004
			通信方式	TCC-LINK	TCC-LINK.u (出荷時)

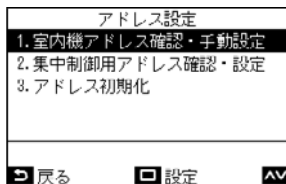
5 応用制御 (つづき)


手動アドレス設定の操作手順

室内ユニットのアドレスの手動設定を行います。電源投入時に自動アドレス設定によりアドレス設定されますが、複合システムではアドレス変更が必要な場合があります。室内ユニットのシステムアドレス・室内アドレス・グループアドレスをリモコン上に表示し、該当する室内ユニットのファンを動作させてアドレスと室内ユニットの関係を確認し、必要場合は手動でアドレスの変更をしてください。室内ユニット停止中に設定を行います。(エアコンは必ず運転を停止させてください。)

アドレス確認・設定

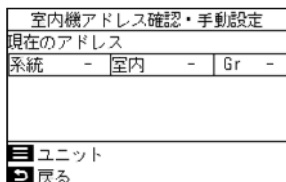
- 1 「メニュー」を押して「メニュー画面」にし、「メニュー」と「」を同時に長押し(4秒以上)して、「現地設定メニュー」にする





- 2 「現地設定メニュー」の「アドレス設定」から「室内機アドレス確認・手動設定」を選んで「設定/決定」を押す

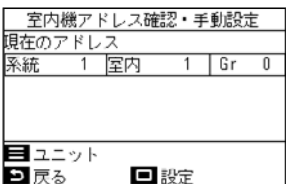
→ 最初にグループ全体の室内ユニットのファンが動作します。


アドレスは「-」が表示されます。







- 3 「メニュー」を押す
→ 「メニュー」を押すごとに、グループ全体→親機→子機1…の順に表示されます。


→ 該当する室内ユニットのファンが動作します。

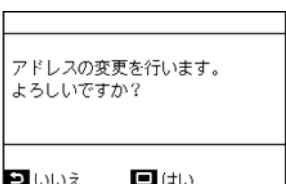




- 4 手で変更するユニットを選んで「設定/決定」を押す
→ 設定画面が表示されます。



- 5 「」「」を押して黒くハイライトされた表示を移動させ、「」「」を押してアドレスを設定する

- 6 すべての室内ユニットの手動アドレス設定後「設定/決定」を押す
→ 画面に「アドレスの変更を行います。よろしいですか?」と表示されます。






- 7 「設定/決定」を押す
→ 変更が確定され、「アドレス設定」画面に戻ります。
→ データ変更中は「」が表示されます。


グループ接続する場合のお願い

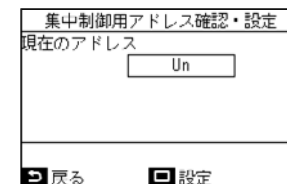
- ・ 4方向吹出しタイプ(コンパクト含む)とそれ以外の室内ユニット(全熱交換ユニット含む)でグループ接続を行う場合は4方向吹出しタイプ室内ユニットを親機に設定してください。
- ・ オートグリル付室内ユニットとそれ以外の室内ユニットでグループ接続を行う場合はオートグリル付室内ユニットを親機に設定してください。

集中制御用アドレス確認・設定

室内ユニットを集中管理機器に接続する場合は集中制御用のアドレス設定が必要です。室内ユニット停止中に設定を行います。(エアコンは必ず運転を停止させてください。)


- 1 「メニュー」を押して「メニュー画面」にし、「メニュー」と「」を同時に長押し(4秒以上)して、「現地設定メニュー」にする

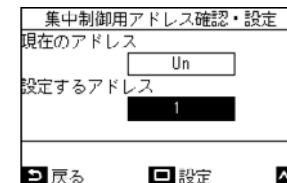
- 2 「現地設定メニュー」の「アドレス設定」から「集中制御用アドレス確認・設定」を選んで「設定/決定」を押す
→ 室内ユニットの現在のアドレスが表示されます。






お知らせ

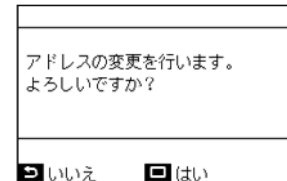
工場出荷時設定は「Un」に設定されています。

- 3 「設定/決定」を押し、「」「」を押して設定する



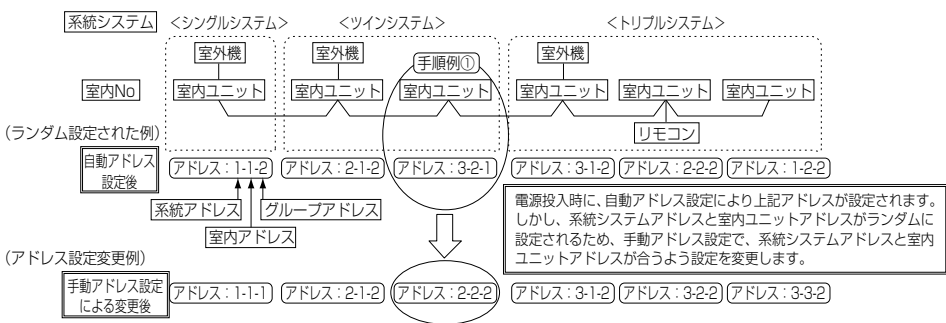
- 4 「設定/決定」を押す
→ 画面に「アドレスの変更を行います。よろしいですか?」と表示されます。

- 5 「設定/決定」を押す
→ 変更が確定され、「アドレス設定」画面に戻ります。
→ データ変更中は「」が表示されます。



<手順例> 手動アドレス設定の操作手順 (複合システムでのグループ制御)

室内ユニット停止中に設定を行います。(エアコンは必ず運転を停止させてください。)



1 「メニュー」を押して「メニュー画面」にし、「メニュー」と「」を同時に長押し(4秒以上)して、「現地設定メニュー」にする

2 「現地設定メニュー」の「アドレス設定」から「室内機アドレス確認・手動設定」を選んで「設定/決定」を押す
→ 画面(1)が表示され、グループ全体の室内ユニットのファンが動作します。

3 画面(1)で「メニュー」を押す
→ 「メニュー」を押すごとに、グループ全体→親機→子機1…の順に表示されます。
→ 画面(2)が表示され、選択している室内ユニットのファンが動作し、他のユニットは停止します。

4 画面(2)でアドレス変更を行う室内ユニットを選んで「設定/決定」を押す
→ 設定画面が表示されます。

5 「」「」を押して黒くハイライトされた表示を移動させ、「」「」を押してアドレスを設定する(画面(3))
→ 同様の手順で室内アドレス「2」にグループアドレスを「2」に設定します。
→ 他の室内ユニットのアドレス変更を行う場合は「メニュー」を押して選択し、同様の手順で設定を行います。

6 各アドレス設定後「設定/決定」を押す
→ 画面(4)が表示されます。

7 「設定/決定」を押す
→ 変更が確定され、「アドレス設定」画面に戻ります。
→ データ変更中は「」が表示されます。

(1)

室内機アドレス確認・手動設定			
現在のアドレス			
系統	-	室内	-
ユニット			
戻る			

(2)

室内機アドレス確認・手動設定			
現在のアドレス			
系統	3	室内	2
Gr	1		
ユニット			
戻る 設定			

(3)

室内機アドレス確認・手動設定			
現在のアドレス			
系統	3	室内	2
Gr	1		
設定するアドレス			
系統	2	室内	2
Gr	2		
ユニット			
戻る 設定			

(4)

アドレスの変更を行います。 よろしいですか?			
いいえ はい			

室内ユニットのNo. は分かるが、その室内ユニット本体の位置を知りたいときの手順

室内ユニット停止中に設定を行います。(エアコンは必ず運転を停止させてください。)

1 「メニュー」を押して「メニュー画面」にし、「メニュー」と「」を同時に長押し(4秒以上)して、「現地設定メニュー」にする

2 「現地設定メニュー」の「アドレス設定」から「室内機アドレス確認・手動設定」を選んで「設定/決定」を押す
→ 画面(1)が表示され、グループ全体の室内ユニットのファンが動作します。
→ 動作している室内ユニットがグループ接続されているものです。

3 画面(1)で「メニュー」を押す
→ 「メニュー」を押すごとに、グループ全体→親機→子機1…の順に表示されます。

4 室内ユニットの位置を確認する
→ 画面(2)が表示され、選択している室内ユニットのファンが動作し、他のユニットは停止します。

5 確認後「戻る」を押す
→ 「アドレス設定」画面に戻ります。

(1)

室内機アドレス確認・手動設定			
現在のアドレス			
系統	-	室内	-
ユニット			
戻る			

(2)

室内機アドレス確認・手動設定			
現在のアドレス			
系統	1	室内	1
Gr	1		
ユニット			
戻る 設定			

お知らせ

親機と子機の設定については、室内ユニット・室外機の据付説明書やサービスガイドなどを参照ください。

6 試運転

試運転の前に

- 電源を入れる前に、次のことを行ってください。
 - (1) 電源端子台とアース間を500Vメーターで計って1MΩ以上あることを確認します。
 - (2) 室外機のバルブが全開しているか確認してください。
- 起動時のコンプレッサ保護のために、電源を入れ12時間以上通電してください。
- 電磁接触器を押して強制的に試運転することは絶対にやめてください。(保護装置が作動しないため大変危険です。)

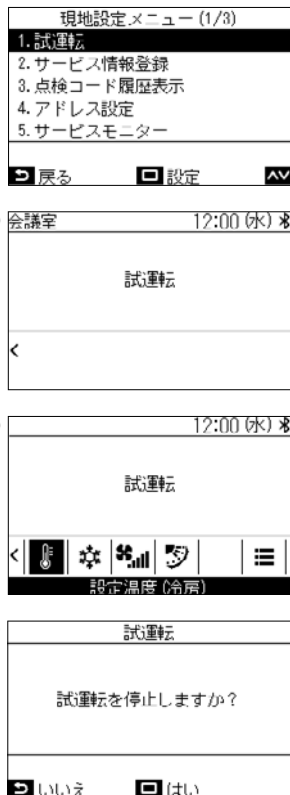
試運転の方法

リモコンで、通常操作で運転確認を行ってください。運転の手順は、付属の取扱説明書に従ってください。室温がサーモOFFのような条件では、以下の手順で強制試運転ができます。強制試運転は、連続運転を防止するため、運転を60分経過すると試運転を解除し、通常運転に戻ります。

注) 強制試運転は、機器に無理が掛かりますので、試運転以外では使用しないでください。

省エネ neo リモコンの場合

- 「 メニュー」を押して「メニュー画面」にし、「 メニュー」と「」を同時に長押し(4秒以上)して、「現地設定メニュー」にする
- 「現地設定メニュー」画面で「」「」を押して「試運転」を選んで「 設定/決定」を押す
 - 「試運転を開始しますか?」と表示されます。
 - 「 設定/決定」を押すと、試運転が設定され、「現地設定メニュー」画面に戻ります。「 戻る」を2回押しすと画面(1)の状態になります。
- 「 運転/停止」を押す
 - 運転が開始され、試運転では画面(2)の表示になります。(停止中は画面(1))
 - 試運転は運転モードを「冷房」または「暖房」にして行ってください。
 - 試運転中は温度設定ができません。
 - 点検コード表示は通常どおり行います。
- 試運転を終了したら、「現地設定メニュー」画面で「」「」を押して「試運転」を選んで「 設定/決定」を押す
 - 画面(3)が表示されます。
 - 「 設定/決定」を押すと、試運転は終了し、通常運転を行います。



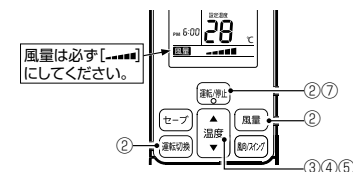
お知らせ

試運転開始から 60 分経過後に試運転は停止し、メイン画面に戻ります。

ワイヤレスリモコンの場合

手順	操作内容	
①	エアコンの電源を投入してください。 据付後初回電源投入時は5分間、2回目以降電源投入時は1分間は運転操作を受け付けません。所定時間経過後に試運転を実施してください。	
②	リモコンの「運転/停止」ボタンを押し、「運転切換」ボタンで運転モードを「冷房」か「暖房」に、「風量」ボタンで風量を「」にしてください。	
③	冷房試運転の場合 「温度」ボタンで「18℃」にしてください。 暖房試運転の場合 「温度」ボタンで「29℃」にしてください。	
④	“ピッ”という受信音確認後直ちに、「温度」ボタンを押して「19℃」にしてください。	“ピッ”という受信音確認後直ちに、「温度」ボタンを押して「28℃」にしてください。
⑤	“ピッ”という受信音確認後直ちに、「温度」ボタンを押して「18℃」にしてください。	“ピッ”という受信音確認後直ちに、「温度」ボタンを押して「29℃」にしてください。
⑥	さらに手順④→⑤→④→⑤を実施してください。 約10秒程度でワイヤレス受信部の表示ランプ「運転」(緑)・「タイマー」(緑)・「準備中」(橙)がすべて点滅し、運転します。もしランプが点滅しない場合には②以降の操作をやり直してください。	
⑦	試運転を確認したら、「運転/停止」ボタンを押して運転を停止してください。	

＜ワイヤレスリモコンからの試運転操作の概要＞
冷房試運転：運転→18℃→19℃→18℃→19℃→18℃→19℃
→18℃→(試運転)→停止
暖房試運転：運転→29℃→28℃→29℃→28℃→29℃→28℃
→29℃→(試運転)→停止



7 カスタム機種モニター

カスタム機種の室内ユニットと室外機の各センサー温度や、運転状況をまとめて確認できます。

1 「 メニュー」を押して「メニュー画面」にし、「 メニュー」と「」を同時に長押し(4秒以上)して、「現地設定メニュー」にする

2 「現地設定メニュー」画面で「」「」を押して「カスタム機種モニター」を選んで「 設定/ 決定」を押す

→ 「」「」を押して表示画面を切り換えることができます。

→ グループ接続時は、ユニット選択画面で選択後に「カスタム機種モニター」画面に移行します。

カスタム機種モニター (1/5)	
リモコンセンサー	24℃
室内吸込温度 (TA)	23℃
室内熱交温度 (IUJ)	13℃
室内熱交温度 (TC)	12℃
室内吹出温度 (TF)	15℃
戻る	

3 確認後「 戻る」を押す

→ 「現地設定メニュー」画面に戻ります。

次の項目を確認することができます。

室内ユニット/ リモコン関係	単位	室外機関係	単位
リモコンセンサー	℃	室外熱交温度 (TE)	℃
室内吸込温度 (TA)	℃	室外温度 (TO)	℃
室内熱交温度 (TCJ)	℃	圧縮機吐出温度 (TD)	℃
室内熱交温度 (TC)	℃	圧縮機吸込温度 (TS)	℃
室内吹出温度 (TF) *1	℃	室外機熱交温度 (TL)	℃
室内送風機回転数	rpm	運転電流	A
室内送風機運転積算時間	h	圧縮機運転周波数	rps
フィルターサイン時間	h	圧縮機積算運転時間	h
		室外送風機回転数 (下)	rpm
		室外送風機回転数 (上)	rpm
		封入冷媒量チェック	*2
		高圧 (Pd)	MPa
		低圧 (Ps)	MPa

*1: 室内吹出温度は、室内熱交温度から推定したものです。実際の吹出温度とは異なる場合があります。

*2: 「封入冷媒量チェック」は次のいずれかが表示されます。それぞれの内容の詳細については室外機の据付説明書やサービスガイドをご参照ください。

- ・「冷媒不足の可能性はありません」
- ・「冷媒不足の可能性ががあります」
- ・「初期動作中/ 判定不可 マニュアルをご覧ください」
- ・「冷媒不足の検出はありませんが 判定を継続しています」
- ・「判定できませんでした マニュアルをご覧ください」
- ・「判定中です」

お知らせ

- ・カスタム機種以外では使用できません。「本機種では設定できません。」と表示されます。
- ・カスタム機種であってもデータが表示されない項目がある場合があります。その場合はその項目のデータは「—」と表示されます。表示される項目とその内容については、室内ユニット・室外機のサービスガイドをご参照ください。

8 故障診断

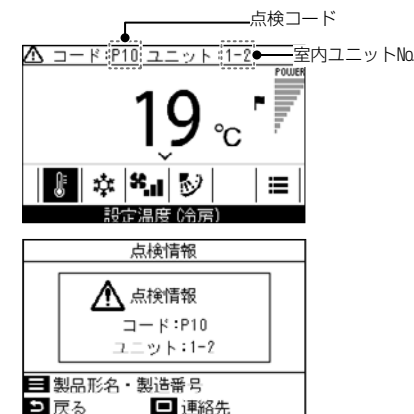
確認と点検

エアコンに不具合が発生した場合、リモコン表示部に点検コードと室内ユニットNo. が点滅表示されます。

* 点検コードは運転中のみ表示されます。

点検コードと室内ユニットNo. が表示されているときに「 戻る」を押すと、「点検情報」画面が表示されます。

「点検情報」画面で「 設定/ 決定」を押すと、連絡先が表示されます。「 メニュー」を押すと、「製品形名・製造番号」が表示されます。



点検コード履歴表示

過去10件の点検コード、発生ユニット、発生日時を表示します。

1 「 メニュー」を押して「メニュー画面」にし、「 メニュー」と「」を同時に長押し(4秒以上)して、「現地設定メニュー」にする

2 「現地設定メニュー」画面で「」「」を押して「点検コード履歴表示」を選んで「 設定/ 決定」を押す

現地設定メニュー (1/3)	
1. 試運転	
2. サービス情報登録	
3. 点検コード履歴表示	
4. アドレス設定	
5. サービスモニター	
戻る	<input type="checkbox"/> 設定

点検コード履歴表示			
ユニットコード	日付	時間	
1. 1-1	L30	2022/01/07 05:41	
2. -	-	-	-
3. -	-	-	-
4. -	-	-	-
リセット			
戻る			

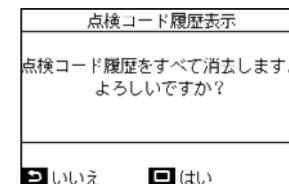
お知らせ

- ・点検コード履歴データは、10 件分の履歴が表示されます。10 件を越す場合は、古いデータ順に自動消去されます。
- ・同じ点検コードが繰り返し発生している場合は、一番最初に発生した日時を表示します。

点検コード履歴の消去

1 「点検コード履歴表示」画面表示中に「 メニュー」を押す
→ 「点検コード履歴をすべて消去します。よろしいですか?」と表示されます。

2 「 設定/ 決定」を押す



お願い

リモコンを2台で使用している場合、それぞれのリモコンで履歴の消去を行ってください。

8 故障診断 (つづき)

●点検コードと点検箇所

ワイヤードリコン表示部	ワイヤレスリモコン受信部表示ランプ			代表故障箇所	検出	点検箇所と故障内容	エアコンの状態
	表示	赤	黄				
E01	●●●				リモコン	リモコンの誤設定…親リモコンが設定されていない場合(含む2リモコン)室内ユニットから信号を受信できない場合	*
E02	●●●				リモコン	渡り線、室内PC板、リモコン…室内ユニットへの信号送信ができない場合	*
E03	●●●				室内	リモコン、ネットワークアダプタ、室内PC板…リモコン及びネットワークアダプタから通信が無い場合	自動復帰
E04	●●●				室内	室内シリアル異常 IPDU-CDB間通信異常	自動復帰
E08	●●●				室内	室内アドレス重複 ☆	自動復帰
E09	●●●				リモコン	リモコン親重複	*
E10	●●●				室内	室内PC板…メインモーターマイコン間のMCU間通信が異常の場合	自動復帰
E18	●●●				室内	室内PC板…室内親子間の定期通信ができない場合、ツイン親(主機)子(従機)間の通信ができない時	自動復帰
E31	●●●				室外	IPDU通信異常	全停止
F01	●●●	交互			室内	室内ユニット 熱交センサ(TCJ)異常	自動復帰
F02	●●●	交互			室内	室内ユニット 熱交センサ(TC)異常	自動復帰
F04	●●●	交互			室外	室外機 吐出温度センサ(TD)異常	全停止
F06	●●●	交互			室外	室外機 温度センサ(TE、TS)異常	全停止
F07	●●●	交互			室外	TLセンサ異常	全停止
F08	●●●	交互			室外	室外機 外気温センサ異常	運転継続
F10	●●●	交互			室内	室内ユニット 室温センサ(TA)異常	自動復帰
F12	●●●	交互			室外	TSセンサ異常	全停止
F13	●●●	交互			室外	ヒートシンクセンサ異常	全停止
F15	●●●	交互			室外	温度センサ接続	全停止
F23	●●●	交互			室外	低圧(PS)センサ異常	全停止
F29	●●●	同時			室内	室内PC板…E2PROM異常の場合	自動復帰
F31	●●●	同時			室外	室外PC板…E2PROM異常の場合	全停止
H01	●●●				室外	電流検出回路、電源電圧…電流リリース制御でmin-Hz到達時、直流動磁以降の短絡電流(I _{dc})検出など	全停止
H02	●●●				室外	コンプレッサ…コンプレッサのロックを検出した場合	全停止
H03	●●●				室外	電流検出回路、室外PC板…AC-CTで異常電流を検出した時、欠相を検出した時	全停止
H04	●●●				室外	ケースサーモ動作(1)	全停止
H06	●●●				室外	電流、高圧スイッチ回路、室外PC板…Ps圧力センサ異常、低圧保護動作	全停止
L03	●●●	同時			室内	室内アドレス誤設定…グループ内に親機が複数存在する場合	全停止
L07	●●●	同時			室内	個別室内ユニットにグループ線あり ☆	全停止
L08	●●●	同時			室内	室内グループアドレス未設定 ☆	全停止
L09	●●●	同時			室内	室内能力未設定	全停止
L10	●●●	同時			室外	サービス用室外PC板ジャンパー設定違いの場合	全停止
L20	●●●	同時			ネットワーク アダプタ集中管理	アドレス設定、集中管理リモコン、ネットワークアダプタ…集中管理系通信のアドレス重複	自動復帰
L29	●●●	同時			室外	その他室外機異常 1) IPDU-CDB間のMCU間通信が異常の場合 2) IGBTのヒートシンク部温度センサで異常温度を検出した場合	全停止
L30	●●●	同時			室内	外部機器チェック、室外PC板…CNB0外部異常入力で異常停止	全停止
L31	●●●	同時			室外	電源相順、室外PC板…三相電源の相順が異常の時	運転継続 (サーモOFF)
P01	●●●	交互			室内	室内ファンモータ、室内PC板…室内ACファンの異常(ファンモータサーマルリレー動作)を検出した場合	全停止
P03	●●●	交互			室外	吐出温度リリース制御で異常を検出した場合	全停止
P04	●●●	交互			室外	高圧スイッチ、IOLが動作した場合+IEによる高圧リリース制御で異常を検出した時	全停止
P05	●●●	交互			室外	電源線の接続不良が考えられます。電源の欠相、電圧のチェックをしてください。	全停止
P07	●●●	交互			室外	IGBTのヒートシンク部温度センサで異常温度を検出した場合	全停止
P10	●●●	交互			室内	ドレンパイプ、排水詰り、フロートスイッチ回路、室内PC…排水系異常、フロートスイッチが動作した場合	全停止

ワイヤードリコン表示部	ワイヤレスリモコン受信部表示ランプ			代表故障箇所	検出	点検箇所と故障内容	エアコンの状態	
	表示	赤	黄					緑
P15	●●●			交互	ガスリーク検出	室外	配管および接続部でガスがリークしている可能性があるため、ガスリークのチェックを行なう。	全停止
P19	●●●			交互	四方弁異常	室外(室内)	四方弁チェック、室内温度センサ(TC、TCJ)チェック…暖房時室内熱交センサの温度低下により異常を検出した場合	全停止 (自動復帰)
P20	●●●			交互	高圧保護動作	室外	高圧保護	全停止
P22	●●●			交互	室外機 室外ファン異常	室外	室外ファンモータ、室外PC板…室外ファン駆動回路で異常(過電流・ロック等)を検出した時	全停止
P26	●●●			交互	室外機 インバータI _{dc} 動作	室外	IGBT、室外PC板、インバータ配線、コンプレッサ…コンプレッサ駆動回路素子(G-Tr-IGBT)の短絡保護動作が働いた場合	全停止
P29	●●●			交互	室外機 位置検出異常	室外	室外PC板、高圧スイッチ…コンプレッサモータの位置検出異常を検出した時	全停止
P31	●●●			交互	他の室内ユニット異常	室内	グループ内部の他の室内が警報中の場合 E03/L07/L03/L08警報	自動復帰

○:点灯、●:点滅、●:消灯 ☆:この時は自動的に自動アドレス設定へ移行する。
交互:点滅LEDが2個あるときの点滅減状態が交互 同時:点滅LEDが2個あるときの点滅減状態が同時

9 室内ユニット設定確認

お客様に引き渡す前に、今回の据え付けた室内ユニットのアドレスおよび設定を確認し、チェックシート（下表）に記入してください。チェックシートは4台分の記入ができますので、据え付けたシステムがグループ制御システムの場合は、他の室内ユニットに付属の据付説明書に分けて系統システムごと記入して、ご使用ください。

お願い

据付後のメンテナンスとして必要ですので、必ず記入をしてお客様に本据付説明書をお渡しください。

室内ユニット設定チェックシート

室内ユニット			室内ユニット			室内ユニット			室内ユニット		
形名	形名	形名	形名	形名	形名	形名	形名	形名	形名	形名	形名
室内ユニットのアドレスを確認してください。（確認方法は、本紙の応用制御を参照してください。）*シングルシステムの場合は、アドレスは記入不要です。（項目コード：系統 [12]、室内 [13]、グループ [14]）											
系統	室内	グループ	系統	室内	グループ	系統	室内	グループ	系統	室内	グループ
各種設定			各種設定			各種設定			各種設定		
フィルターサイン点灯時間を変更しましたか。未実施の場合は [変更なし] に、変更した場合は変更した [項目] に [レ] 印を付けてください。（確認方法は、本紙の応用制御を参照してください。）											
フィルターサイン点灯時間 （項目コード [011]） <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> なし [0000] <input type="checkbox"/> 150H [0001] <input type="checkbox"/> 2500H [0002] <input type="checkbox"/> 5000H [0003] <input type="checkbox"/> 10000H [0004]			フィルターサイン点灯時間 （項目コード [011]） <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> なし [0000] <input type="checkbox"/> 150H [0001] <input type="checkbox"/> 2500H [0002] <input type="checkbox"/> 5000H [0003] <input type="checkbox"/> 10000H [0004]			フィルターサイン点灯時間 （項目コード [011]） <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> なし [0000] <input type="checkbox"/> 150H [0001] <input type="checkbox"/> 2500H [0002] <input type="checkbox"/> 5000H [0003] <input type="checkbox"/> 10000H [0004]			フィルターサイン点灯時間 （項目コード [011]） <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> なし [0000] <input type="checkbox"/> 150H [0001] <input type="checkbox"/> 2500H [0002] <input type="checkbox"/> 5000H [0003] <input type="checkbox"/> 10000H [0004]		
暖房シフト値を変更しましたか。未変更の場合は [変更なし] に、変更した場合は変更した [項目] に [レ] 印を付けてください。（確認方法は、本紙の応用制御を参照してください。）											
暖房シフト値設定 （項目コード [06]） <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> シフトなし [0000] <input type="checkbox"/> +1℃ [0001] <input type="checkbox"/> +2℃ [0002] <input type="checkbox"/> +3℃ [0003] <input type="checkbox"/> +4℃ [0004] <input type="checkbox"/> +5℃ [0005] <input type="checkbox"/> +6℃ [0006]			暖房シフト値設定 （項目コード [06]） <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> シフトなし [0000] <input type="checkbox"/> +1℃ [0001] <input type="checkbox"/> +2℃ [0002] <input type="checkbox"/> +3℃ [0003] <input type="checkbox"/> +4℃ [0004] <input type="checkbox"/> +5℃ [0005] <input type="checkbox"/> +6℃ [0006]			暖房シフト値設定 （項目コード [06]） <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> シフトなし [0000] <input type="checkbox"/> +1℃ [0001] <input type="checkbox"/> +2℃ [0002] <input type="checkbox"/> +3℃ [0003] <input type="checkbox"/> +4℃ [0004] <input type="checkbox"/> +5℃ [0005] <input type="checkbox"/> +6℃ [0006]			暖房シフト値設定 （項目コード [06]） <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> シフトなし [0000] <input type="checkbox"/> +1℃ [0001] <input type="checkbox"/> +2℃ [0002] <input type="checkbox"/> +3℃ [0003] <input type="checkbox"/> +4℃ [0004] <input type="checkbox"/> +5℃ [0005] <input type="checkbox"/> +6℃ [0006]		
温度センサ切換を変更しましたか。未変更の場合は [変更なし (無効)] に、変更した場合は [有効] に [レ] 印を付けてください。（確認方法は、本紙の応用制御を参照してください。）											
温度センサ切換 （項目コード [32]） <input type="checkbox"/> 変更なし (無効) [0000] <input type="checkbox"/> 有効 [0001]			温度センサ切換 （項目コード [32]） <input type="checkbox"/> 変更なし (無効) [0000] <input type="checkbox"/> 有効 [0001]			温度センサ切換 （項目コード [32]） <input type="checkbox"/> 変更なし (無効) [0000] <input type="checkbox"/> 有効 [0001]			温度センサ切換 （項目コード [32]） <input type="checkbox"/> 変更なし (無効) [0000] <input type="checkbox"/> 有効 [0001]		
換気単独設定を変更しましたか。未変更の場合は [変更なし (無効)] に、変更した場合は [有効] に [レ] 印を付けてください。（確認方法は、本紙の応用制御を参照してください。）											
換気単独設定 （項目コード [31]） <input type="checkbox"/> 変更なし (無効) [0000] <input type="checkbox"/> 有効 [0001]			換気単独設定 （項目コード [31]） <input type="checkbox"/> 変更なし (無効) [0000] <input type="checkbox"/> 有効 [0001]			換気単独設定 （項目コード [31]） <input type="checkbox"/> 変更なし (無効) [0000] <input type="checkbox"/> 有効 [0001]			換気単独設定 （項目コード [31]） <input type="checkbox"/> 変更なし (無効) [0000] <input type="checkbox"/> 有効 [0001]		
通信方式を変更しましたか。未変更の場合は [変更なし (TCC-LINK.u)] に、変更した場合は [TCC-LINK] に [レ] 印を付けてください。（確認方法は、本紙の応用制御を参照してください。）											
通信方式 （項目コード [FC]） <input type="checkbox"/> 変更なし (TCC-LINK.u) [0004] <input type="checkbox"/> TCC-LINK [0000]			通信方式 （項目コード [FC]） <input type="checkbox"/> 変更なし (TCC-LINK.u) [0004] <input type="checkbox"/> TCC-LINK [0000]			通信方式 （項目コード [FC]） <input type="checkbox"/> 変更なし (TCC-LINK.u) [0004] <input type="checkbox"/> TCC-LINK [0000]			通信方式 （項目コード [FC]） <input type="checkbox"/> 変更なし (TCC-LINK.u) [0004] <input type="checkbox"/> TCC-LINK [0000]		
別売品組込			別売品組込			別売品組込			別売品組込		
下記別売品を組み込みましたか。組み込んだ場合は各 [項目] に [レ] 印を付けてください。（組込時に設定切換が必要なものがあります。設定切換方法は、各別売品に付属の取付説明書を参照してください。）											
<input type="checkbox"/> ドレンアップキット <input type="checkbox"/> 下面吸込ボックス <input type="checkbox"/> ロングライフフィルター <input type="checkbox"/> 防露 (高湿度) キット			<input type="checkbox"/> ドレンアップキット <input type="checkbox"/> 下面吸込ボックス <input type="checkbox"/> ロングライフフィルター <input type="checkbox"/> 防露 (高湿度) キット			<input type="checkbox"/> ドレンアップキット <input type="checkbox"/> 下面吸込ボックス <input type="checkbox"/> ロングライフフィルター <input type="checkbox"/> 防露 (高湿度) キット			<input type="checkbox"/> ドレンアップキット <input type="checkbox"/> 下面吸込ボックス <input type="checkbox"/> ロングライフフィルター <input type="checkbox"/> 防露 (高湿度) キット		

10 フロン排出抑制法による冷媒充填量記載のお願い

- 機器の設置時にフロン類を充填した場合は、充填を行った者がフロン類の種類と充填量を表示することが、法的に義務付けられています。
- 設置工事時の追加冷媒量・総冷媒量・冷媒の二酸化炭素換算値および設置時に冷媒を充填した事業者名を室外機の追加冷媒記録欄に記入してください。
- 総冷媒量は、出荷時の冷媒量と設置時の追加冷媒量の合計値を記入してください。出荷時の冷媒量は室外機の「装置銘板」に記載された冷媒量です。
- R32の地球温暖化係数 (GWP) は [675] です。
- 既に表示がなされている機器の修理や移設などで、表示内容に変更を生じた場合は、フロン類の数量を再表示してください。



お願い

フロン排出抑制法に基づく点検実施のお願い

本製品を所有されているお客様は、フロン排出抑制法に基づく点検を実施してください。「点検記録簿」には、機器を設置したときから廃棄するときまでのすべての履歴を記載してください。費用等点検に関する詳細につきましては、お買い上げの販売店または東芝エアコン空調換気ご相談センターにお問合せください。「点検記録簿」に関しては、下記サイト内にありますので、ダウンロードしてご使用ください。
日本冷凍空調設備工業連合会のホームページ：<http://www.jarac.or.jp/>

東芝キャリア株式会社

〒416-8521 静岡県富士市蓼原336番地